

## 助成活動実績報告書

企画名	瀬戸内の海を知ろう ～漁業を通して～
団体名	おかやまコープ倉敷エリア委員会

### ①活動の目的について

地元の身近な海である「瀬戸内海」に目を向け、海の現状や将来のあり方を、「環境」「漁業」等の視点から私たちのくらしとの関わりを親子で学ぶとともに、身近な生活や環境に関心を持ち、環境にやさしくらしの方の実践をすすめる端緒にする。

### ②内容について

○2013年4月4日 「船にのってみんなで知ろう」 参加人数 49人

瀬戸内沿岸の漁法である「定置網漁」を漁船に乗船し、瀬戸内で獲れる魚種や漁獲の状況を漁師の方からお聞きすると共に、定置網漁や底引き網漁で回収される「海ごみ」の実態を学び、自らの生活の見直しや環境への配慮、食べ物への影響等について学びました。また、魚料理の体験、試食を通して海の恵みに感謝し、持続可能な環境の大切さを学びました。本企画は、黒崎連島漁業協同組合、みずしま財団の協力を得て開催しました。

○2013年8月29日 「みんなで探そう海の生き物」 参加人数 24人

児島通生（かよう）海岸にて、海の生き物観察を中心に、生き物に必要な環境や海ゴミの状況を学びました。岡山県水産課や大学の先生等海洋生物の専門家の説明もあり、海の生き物の種類や生態、必要な環境についてしっかり学ぶことができました。また、海ごみなど環境側面だけでなく、潮位や潮の干満など海とわたしたちの生活の結びつきを考える機会となりました。本企画は、みずしま財団の協力を得て開催しました。

### ③この活動によって達成された成果

- ・ テーマを身近な「海」としたこと、フィールドを「玉島」「児島」と地元としたこと、参加対象を「親子」としたこと、共通のキーワードを「海ごみ」としたことから、多くの親子の参加となりました。
- ・ 「海ごみ」に関連して、「海ごみ」の発生源の多くは、ごみの種類からの推測として陸地で暮らす参加者を含む地域住民であることの説明を受け、ごみを安易に投棄しない、発生させない等のくらしの見直しに気づくことができました。
- ・ また、海ごみの処理として魚網にかかるごみは処理費用との関係もあり、「回収」でなく大半を「そのまま投機」していることの説明があり、そのことが海洋汚染や海洋資源、漁獲など、わたしたちの環境だけでなく食生活にも関係していくことへの理解が深まりました。
- ・ 「瀬戸内海の魚」を調理し、試食することで「海の恵」に感謝するとともに、漁業資源の持続可能な環境作りや漁業の実情への関心も高まりました。
- ・ 「海」は「気候」「資源」「生活」などわたしたちのくらしと密接なつながりをもっていることが理解でき、海を守り、海と共存していくことの必要性を強く感じる事ができた。そのためにもわたしたちに何ができるのかを常に問い続け、できることから行動していくことや行動に参加する人の輪を広げていくことが重要であることが理解できました。

### <参加者の感想から>

海の生き物の豊かさ、なぜごみを捨てる人がいるのか、いろいろ勉強になりました。／生みごみ学習は、大人も楽しく勉強になりました。行動を見直すきっかけになりました。／わたしたち人間のポイ捨てが、海ごみを誤って魚たちが食べて死んでしまったり、魚のすみよい環境を破壊していることが理解でき、今後に繋がりました。／まだまだ自然の中にも生き物が多くいることを知り、環境についても考えなくてはいけないと思いました。／海岸の山や干潟に大きなタイヤや洗濯機、たくさんのペットボトルやナイロン袋など今まで学習してきたたくさんの海ごみを実際に目にして、とてもいやな思いも感じました。

### ④今後の計画・展望について

今後も今回の助成事業をきっかけに、地球的規模での持続可能な社会の実現を視野に入れつつ、生活の身近な環境問題に目を向け、誰もができる環境にやさしくらし方の実践を広げていきたいと思います。

今回助成を受けたおかやま環境ネットワーク、本助成事業の企画への協力を受けたみずしま財団等とのつながりを継続し、環境の活動を続けていきたいと思います。

⑤写真等参考資料添

○2013年4月4日 「船にのってみんなで知ろう」



※初めて「定置網漁」を見ました



※魚種の豊富さにびっくりしました



※海ごみの多さに唖然



※海の恵を漁業者とともに味わいました

○2013年8月29日 「みんなで探そう海の生き物」



※海の様子をスケッチ



※海水温、透明度なども調査



※干潟や石の裏など様々な生き物を発見



※名前だけでなく生態などの特徴を学習